

食の多様性改善に向けた、女性のエンパワーメントさらに男性の栄養教育への関心をup!

■ 実施団体：
社会医療法人 雪の聖母会
特定非営利活動法人 ISAPH

■ 対象国・地域：
マラウイ国ムジンバ県

■ 現地カウンターパート
ムジンバ県南部保健局

■ 協力内容：
住民全体を対象とした

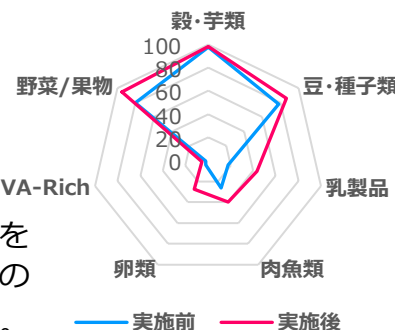
- ・コミュニティでのグループ菜園の推進
- ・地域ネットワークを利用した栄養教育の実施
- ・レシピレパートリーの向上に向けた調理実習の実施

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・2007年よりヘルスポストの支援のためマラウイで活動開始
- ・2013年よりJICA草の根技術協力事業にて、マラウイの5歳未満児の栄養改善事業を実施

■ 事業実施の背景：

食事摂取のバランスが偏り、5歳未満児の**38.9%**が慢性的な栄養不足（低身長）に陥っていた。知識だけでは行動変容が困難なことを経験していたため、地域・村落全体の食料安全保障の改善を検討していた。



マラウイ国の課題と成果

課題① 家庭内で食事に関して、メニューは男性が決定し、調理のみ女性が担うという、栄養改善上、母子にとって不利な状況にあった。

成果① 村長を活動に巻き込むことで、村の男性たちが農業だけでなく、栄養教育・調理実習にも参加するようになった。

課題② 食事や栄養について学ぶ機会が限られており、保健医療従事者の講話などからしか、正しい情報を得ることができていなかった。

成果② 地域ネットワークとICTやSNSを活用し、住民が情報をより得やすくなった。また成功体験を共有したり、学び合いができるようになった。

事業対象地・周辺地の波及効果

! ヒト・モノはコミュニティーにあるものだから、住民自身が気づいて・変わるきっかけになった!

- **拡大** 活動を知った対象外地域の住民が、調理実習を真似するようになった。地元で入手できる食材を使った事例として、マラウイ全土での展開が期待できる。
- **自立** 一部の母らは、活動で学んだ栄養価の高い食材を使って、お菓子を手作りし、販売するようになった。
- 住民自身がインターネットから新しいレシピを検索し、コミュニティーでの調理実習に活用するようになった。